

専攻名	全学共通	必修・選択	選択	種類	講義	単位	2	学期	2Q
科目群	ビジネスアプリケーション科目群	科目名	ビジネスアプリケーション特論 (スクラムによる Web アプリケーション開発コース)			教員名	秋口 忠三 永瀬 美穂 吉岡 弘隆		

概要	<p>ビジネスアプリケーション分野では、進化を続ける先端情報技術や情報インフラを有機的に活用し、潜在的なビジネスニーズや社会ニーズに対する実践的問題解決ができる人材が求められている。enPiT プログラムではプロジェクト型学習（PBL）によってこのような人材の育成を行うことを目的としている。</p> <p>本科目では、まず、プロジェクト管理、製品・サービス企画、情報デザインと UX（ユーザ経験）の各分野の専門家によるオムニバス形式の講義によって、分散形式での PBL を実施するための基礎となる知識を修得する。続いて、分散形式の PBL を実施するための準備として、PBL 計画立案をグループワークとして実施する。</p>		
目的・狙い	<p>本科目は、ビジネスアプリケーション特別演習として実施される分散形式での PBL の準備を目的としている。対象とするビジネスアプリケーションは、楽天 API（楽天株式会社が提供する Web アプリケーション開発用の API）を使用した Web アプリケーションであり、アジャイル開発手法のスクラムでの開発を実践する。本科目では分散 PBL を実施するにあたって必要となるプロジェクト管理、企画、情報デザイン、Web アプリケーションの歴史・背景の知識を取得した上で、分散 PBL のチーム編成、PBL テーマ検討、計画策定をミニ PBL として実施する。最終成果物としては PBL 開発計画書を作成する。</p>		
前提知識 (履修条件)	<p>本科目は、最終的に PBL 開発計画書を完成させることを目指す。そのために必要な知識・スキルとしては、アジャイル開発手法と Web アプリケーション開発技術がある。それぞれ、第 2 クォータで開講される「アジャイル開発手法特論」、enPiT プログラム短期集中合宿の第 1 週目で開講される「ビジネスアプリケーション演習」で学修できる内容である。これらの講義を履修済みであること、もしくは同等レベルの知識をもっていることが本科目の履修条件となる。</p>		
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>ビジネスアプリケーション開発に必要なプロジェクト管理、企画、デザイン、歴史背景の認識を知識として持ち、その知識を活用して適切な PBL 計画書の作成に主導的に取り組み大きな貢献度を示すことができる。</p> <p>最低到達目標</p> <p>ビジネスアプリケーション開発に必要なプロジェクト管理、企画、デザイン、歴史背景の認識を知識として持ち、その知識を活用して適切な PBL 計画書の作成に貢献することができる。</p>		
授業の形態	形態	実施	授業で実施する形態の特徴
	講義（単方向）	○	担当教員による講義を行う。演習の手順について解説する。
	講義（双方向）		
	実習・演習（個人）	○	オムニバス形式の各講義の演習課題について個人で実習を行う。
	実習・演習（グループ）	○	チームを編成し PBL テーマの検討、PBL 計画書の作成を行う。
	その他		
遠隔で受講する場合の留意点	<p>・第 1 日目から第 4 日目までのオムニバス講義は、TV 会議システムまたはオンラインビデオ会議システムを利用した受講が可能である。</p> <p>・第 4 日目と第 5 日目の PBL 計画立案のグループワーク(ミニ PBL)は、産技大品川キャンパスに集合する必要がある。</p>		
授業外の学習	<p>・オムニバス講義に関しては各講義毎にレポートの提出を求められることがある。</p> <p>・ミニ PBL の成果物である PBL 計画書は最終成果物を完成させるまでに講義終了後も作業が発生することがある。</p>		
授業の内容	<p>本科目は、前半がオムニバス形式の講義、後半がグループワーク（ミニ PBL）で構成されている。前半のオムニバス形式の講義は、平日の第 5 時限と第 6 時限で連続して実施する。</p> <p>後半のミニ PBL は平日の一日の第 5 時限と第 6 時限、および土曜日の特別編成の時間割（第 1 時限～第 5 時限）で実施する。</p>		

授 業 の 計 画	第 1 回	【W e bアプリケーション開発におけるプロジェクト管理】酒森教授 仕事を進めるにあたり定常業務とプロジェクトの違いを理解し、プロジェクト活動で重要となるプロセスや管理手法を国際標準である「PMBOK ガイド(r)第 4 版」に準拠して体系的に解説する。さらにこの後 e n P i T プログラムで実施するW e b アプリケーション構築 P B L 演習について、その特徴にあったプロジェクト計画の作成方法について指導する。	
	第 2 回	【W e bアプリケーション開発におけるプロジェクト管理】酒森教授 続き	
	第 3 回	【W e bアプリケーションサービスの企画】成田教授 W e b アプリケーションサービスの企画に必要な、アプリケーション製品やサービス製品の企画の方法、技術／市場の調査の方法、知財権利（標準と特許）の扱いについて論じる。また、必要に応じて演習を行う。	
	第 4 回	【W e bアプリケーションサービスの企画】成田教授 W e b アプリケーションサービスの企画に必要な、スマホ／携帯に関するデバイスの世界の動向、W e b アプリケーション関連の技術動向について論じる。	
	第 5 回	【情報デザインと ux】佐々講師（ゼロックス・パロアルト研究所） 「情報デザイン」と「ux」の基本的な概念とそれらのイノベーションへの適用などを学ぶ。パロアルト研究所が実践している ux イノベーションのフレームワーク、とりわけ人間中心のテクノロジー・イノベーションについて、事例を交えながら紹介する。講義の中では、これらに関連したユーザー観察法による簡単な演習を行う。	
	第 6 回	【情報デザインと ux】佐々講師（ゼロックス・パロアルト研究所） 続き	
	第 7 回	【日本におけるインターネット・ビジネスの発展】小林講師（楽天株式会社） 日本におけるインターネット・ビジネスの歩みを、楽天の創業メンバーの一人である講師が、楽天市場を事例として、その発展の歴史を紹介する。	
	第 8 回	【IT 産業の歴史】吉岡客員教授（楽天株式会社） IT 産業の発展の歴史を、メインフレーム時代、pc 時代、インターネット時代とし、概説をする。その中でインターネットがリッカー文化によって支えられて来た事例などを紹介する。	
	第 9 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 ・ミニ PBL 開始のための準備を行う。初日はガイダンスおよびゴールの設定、チームビルディングを行いインセプションデッキを作成してプロダクトのイメージを作る。	
	第 10 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 続き	
	第 11 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 2 日目は初日に作成したインセプションデッキを踏まえ、開発環境の整備を行いプロトタイプを作る。	
	第 12 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 続き	
	第 13 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 続き	
	第 14 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 続き	
	第 15 回	【分散 PBL の計画立案（ミニ PBL）】 続き	
	試 験	分散 PBL 計画書の提出をもって試験に代える。	
成 績 評 価	分散 PBL 計画書の内容と作成に当たっての貢献度で評価する。 ・ PBL 計画書の内容（50%）、貢献度（50%）		
教科書・教材	毎回の講義で講義資料を配布する。		
参 考 図 書	毎回の講義で参考図書を指定する。		
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容
メタ	コミュニケーション能力	○	チームによるソフトウェア開発におけるコミュニケーション
	継続的学修と研究の能力	○	自発的な問題発見と解決能力
	チーム活動	○	チームによる計画書作成
コア	革新的概念、アイデア発想力		
	社会的視点及びマーケット的視点	○	価値の高いソフトウェアを提供する方法論
	ニーズ分析力		
	モデリングとシステム提案		
	マネジメント能力	○	現実的に計画するための手法
	ネゴシエーション能力		
	ドキュメンテーション能力		